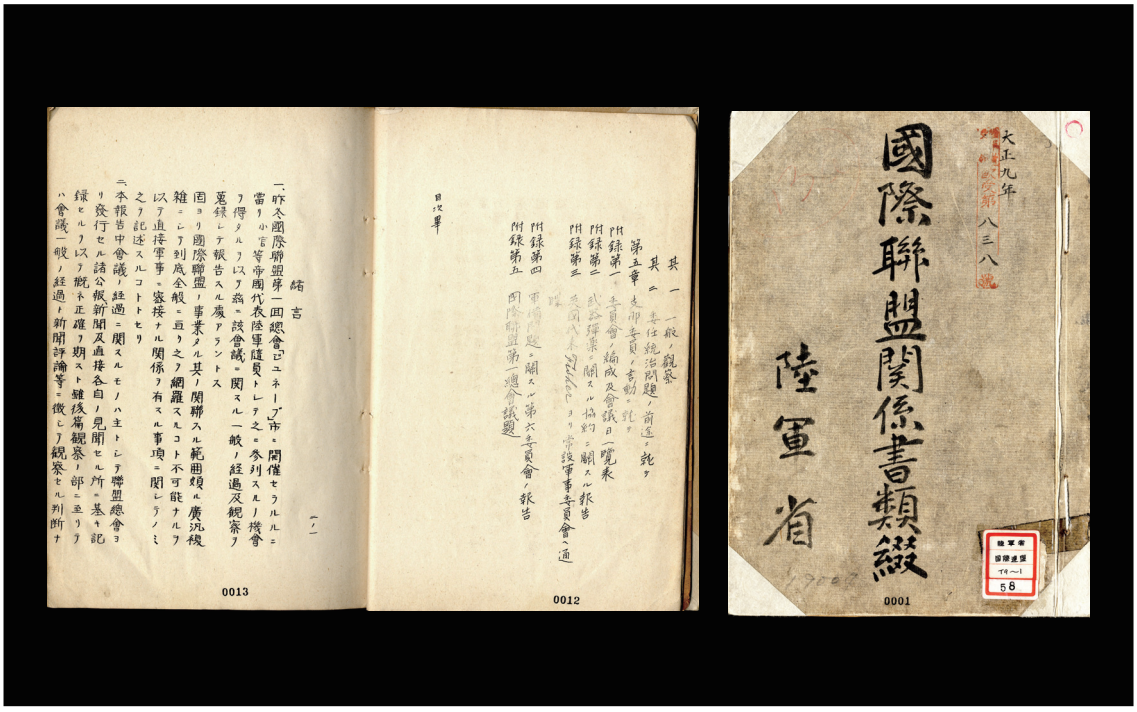


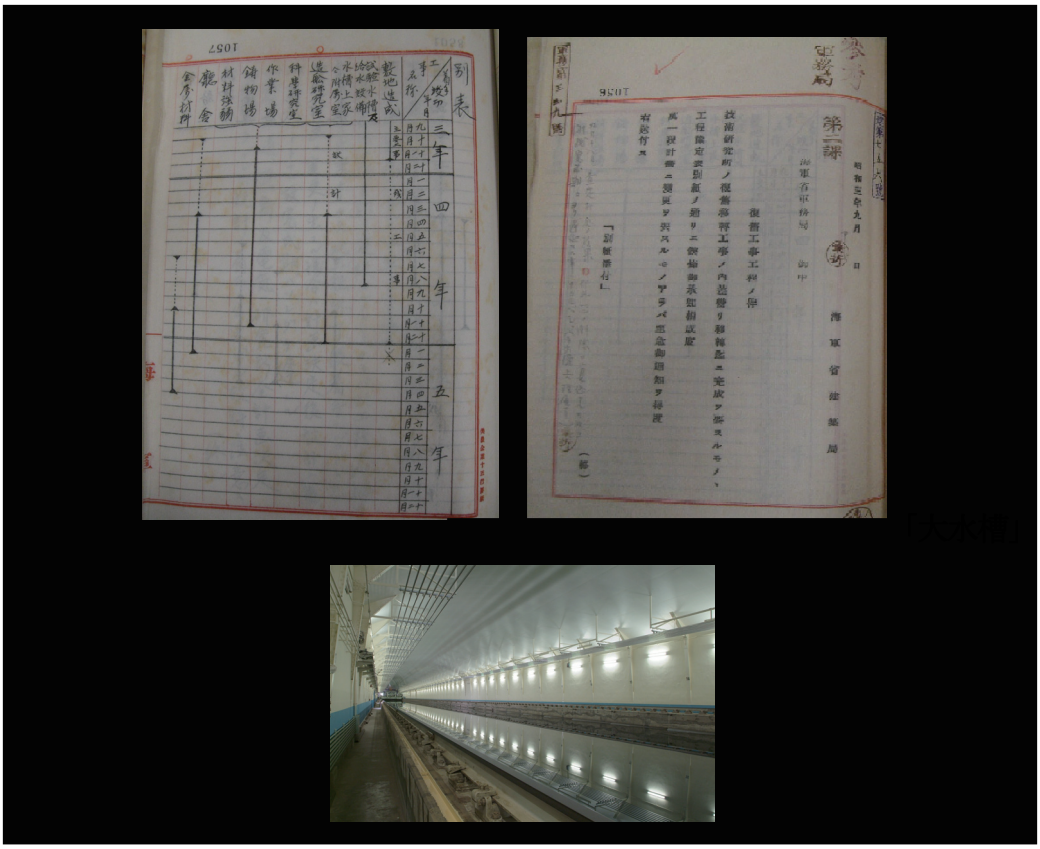

「国際聯盟第一回総会ニ関スル報告」

国際連盟・帝国代表陸軍随員であった陸軍少将・渡邊壽、陸軍歩兵中佐・杉山元（後の陸軍大臣・参謀総長）及び陸軍歩兵大尉・井関隆昌の３名は、大正 10（1921）年１月 15 日付で「国際聯盟第一回総会ニ関スル報告」（陸軍省-国際連盟-T9-1-58）を作成した。この報告は、一般的経過に関する部分と彼らの観察意見に関する部分との二部構成である。後者の観察意見の部分で、彼らは、経済封鎖について、その効果が極めて大きいこと、そのため経済封鎖を含む経済問題が将来戦の遂行要領に大きな影響を及ぼすとの認識を示した（「大正 9 年欧欧受第 838 号国際関係書類綴」、防衛研究所図書館蔵）。

『Medical Report of The Atomic Bombing in Hiroshima』
（「原子爆弾に依る廣島戦災医学的調査報告」）

広島原爆に際して陸軍軍医学校がまとめた「原子爆弾に依る廣島戦災医学的調査報告」を、ＧＨＱ向けに翻訳したもの。医学的調査報告は陸上自衛隊衛生学校の医学情報史料室「彰古館」と、広島平和記念資料館に現存しているが、英訳版は知られる限り、国内では彰古館所蔵のものが唯一と考えられている。

発行は昭和 20 年 11 月 30 日で、同日、第１回学術会議が開催され、各専門分野別に報告をしたが、同じ日に陸軍省令第 56 号で陸軍省は解体され、その下部組織の医務局、隷下の陸軍軍医学校も廃止となった。連名の東京陸軍第一病院もまた翌日付で厚生省第一復員局に吸収された。この報告書の発刊を以って、陸軍軍医学校は終焉を迎えたのである（陸上自衛隊衛生学校「彰古館」蔵）。




「復舊工事工程の件」

上段右：海軍省建築局が海軍省軍務局に宛てた「復舊工事工程の件」（昭和３年９月）
上段左：同文書別紙「工程予定表」
下段　：現在の「大水槽」（艦艇装備研究所内）

上記文書（海軍省-公文備考-S-4-102-3889）の発出の背景は、大正 12 年の関東大震災である。その被害の結果、昭和 4 年、海軍技術研究所の築地から目黒への移転が決まり、「大水槽」が建設された。この地に落ち着くまで約 4 年の歳月を要したことになる。上記文書には、移転までに完成を要するものについての「工程予定表」が添えられ、「大水槽」は「工程予定表」によれば、最優先であることが読み取れる。また本紙には、万一変更を要する場合には、至急連絡すべき旨が書かれている（「昭和 4 年公文備考 K 土木巻八ノ二」、防衛研究所図書館蔵）。